

## 東川町略年表

西暦	和暦	出来事
1895	明治28	殖民地貸付始まる。香川、富山、愛知、徳島県人などが入植。戸数80戸、人口472人
1897	明治30	旭川村から分離して「東川村」が新設
1899	明治32	東川小学校開設
1903	明治36	東川村土功組合設立
1909	明治42	独立した二級町村「東川村」となる
1912	大正元	農家戸数が1268戸。本質的な農村へ
1927	昭和2	旭川電気軌道(電車)開通
1934	昭和9	大雪山一円が国立公園に指定される 東川初の電力による小西木工場開業
1943	昭和18	水温上昇施設(遊水地)着工
1947	昭和22	大洪水で開村以来の大被害となる
1948	昭和23	東川村農業協同組合が発足
1956	昭和31	町内に初めて公営住宅が建てられる(2棟10戸)
1959	昭和34	町制施行で「東川町」に
1967	昭和42	東川釣会誕生。ニジマス1万尾放流する
1968	昭和43	旭岳ロープウェイが全線開通
1970	昭和45	米過剰による生産調整始まる
1972	昭和47	旭川電気軌道(電車)が廃止
1975	昭和50	農村総合整備モデル事業、道営水質障害対策事業に着手
1977	昭和52	大雪山が国の特別天然記念物に指定
1979	昭和54	北海道神宮の神饌米指定を受ける
1982	昭和57	勇駒別(ゆこまんべつ)温泉を「旭岳温泉」と改称 開拓記念「羽衣公園」、郷土館オープン
1985	昭和60	「雪と水を楽しむ集い」を「東川氷まつり」として開催 「写真の町」宣言を行なう。第1回東川町国際写真フェスティバルなど開催
1987	昭和62	木彫看板第1号製作(東川町商工会議所青年部)
1988	昭和63	「第1回東川どんとこい祭り」開催
1989	平成元	キトウシ家族旅行村オープン 東川町文化ギャラリーオープン
1994	平成6	第1回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」開催 人口が7000人を下回る(3月末) 「東川町開拓100年記念式典」開かれる 東川高校に写真部が誕生
1995	平成7	町のHPを開設。千歳市に次ぐ道内2番目
1999	平成11	大雪遊水公園がオープン
2001	平成13	インフォメーションセンター「道草館」オープン
2002	平成14	「美しい東川の風景を守り育てる条例」制定
2003	平成15	町の合併問題検討委員会が答申。賛否割れ、両論併記 町長選で松岡市郎氏が初当選 移住・定住支援策を拡充。アパート新築助成や起業時最大100万円など
2004	平成16	幼児センターが幼保一元化特区に 「大雪旭岳源水公園」がオープン
2005	平成17	東川町が景観法により定義される景観行政団体となる
2006	平成18	「グリーンヴェレッジ東川」分譲開始 「君の椅子」初めての贈呈式
2007	平成19	忠別ダム竣工式が行なわれる JAひがしかわが水稲種籾の湯湯殺菌消毒施設を導入
2008	平成20	機構改革で「写真の町課」を新設 大雪旭岳源水が平成の名水百選に 「写真の町」ひがしかわ株主制度がスタート
2010	平成22	東川中学校の全生徒に名前入りの木の椅子(卒業時に贈呈) 第2回地下水サミットを東川町で開催。11自治体が参加
2011	平成23	地下水の大量取水を条例で制限。ニセコ町に次ぐ道内2例目 不妊治療費の自己負担分を町が全額助成
2012	平成24	モンベル大雪ひがしかわ店がオープン 「東川米」が道産米として初の地域団体商標登録
2013	平成25	「大雪旭岳源水」のボトリング工場が稼働開始 「大雪旭岳源水」が地域団体商標登録。飲料水の地域ブランドは全国初 「ひがしかわ写真少年団」発足。初の撮影会 東川町初の海外事務所「台湾観光案内所」開設
2014	平成26	旭川福祉専門学校の日本語学科で授業開始 「写真文化首都」宣言を行なう 東川小学校が新築移転 42年ぶりに人口が8000人台に回復
2015	平成27	写真甲子園の海外版「高校生国際交流フェスティバル」スタート
2017	平成29	映画『写真甲子園 0.5秒の夏』公開
2018	平成30	町内の幼・小・中・高校で異文化理解を深める新教科「Globe(グローブ)」の授業開始 複合交流施設「せんとびゅあII」がオープン
2019	令和元	町議会議員選挙で移住者が4名当選(定数12)
2020	令和2	岐阜県から三千櫻酒造が移転。日本でも珍しい公設民営型の酒蔵誕生

参考文献:『東川町史』(1975)、『東川町史 第二巻』(1995)、『東川町史 第3巻』Web版(2020)